

江津市長 中村 中 殿

江津市議会議長 藤間 義明

「市民と語る会」での「意見・要望」について(情報提供及び回答のお願い)

本年5月に、市内全地域コミュニティセンターにおいて、江津市議会では「市民と語る会」を行いました。延べ260名の参加者との意見交換をする中で様々な意見・要望をいただきました。その中で議会において集約した意見・要望について、下記の通り情報共有させていただきます。また、議会として市民から頂いたご意見に応じていく責務があると考えています。

つきましては、「市民と語る会」の趣旨をご理解いただき、令和5年10月16日(月)までに意見・要望に対する執行部からの誠意ある回答をいただきますようお願い申し上げます。なお、いただいた回答につきましては、地域への配布やホームページへの掲載により公表したいと考えています。

記

【地域医療】

- ① 済生会江津総合病院の診療科の縮小、医師・看護師不足の原因を分析した取り組みについて。
○江津市民の、命や健康を守り、救急医療体制を守るために、医師看護師不足の現状の分析はどのように分析されているのか、また、総合病院としての機能を今後も維持するための具体的対策をお示しいただきたい。
- ② 地域メディカルネットワークの機能は活かされているのか。
○地域メディカルネットワークによる、済生会病院と開業医(後継者不足もある)との医療連携は地域医療にとって有益と考えるが、ネットワークが十分に機能しているのか、また課題があるとしたその対策については医療機関と行政は共有されているのかお示しいただきたい。
- ③ 産婦人科医のいない事で、分娩できない事への不安について。
○市内で、分娩できない状態となっており、里帰り出産も難しくなっている。更に、若者の定住や子どもを産み育てることへの不安も大きく、人口減少対策に力を入れる本市にとって大きな痛手である。こうした不安解消に向けた対策についてお示しいただきたい。

④ 市民と議会と済生会病院と問題点の共有化を図る場について。

○済生会病院を地域で守り育て、医療スタッフの方と一緒に現状を共有することが問われている。課題など相互理解を深めるために、課題解決に行政や医療現場、市民が一体となる事が求められており、そうした意見交換をする場の取り組みを通じて、医師に愛着を持ってもらい、済生会を選択してもらい定着される地域医療に向け、地域ボランティアサポートシステムを立上げるなど、地域から済生会総合病院を応援する体制づくりをお願いしたい。

【空き家対策】

① 解体・撤去(規制線や張り紙)などの行政主導による早急な対応について。

○議会でも取り上げられていますし、市長と語る会でもテーマに掲げている。この問題は一朝一夕に解決は難しい問題ではあるが、解体・撤去(規制線や張り紙等)などのご行政主導による早急な対応をお示しいただきたい。

② 相談窓口の設置について。

○一般質問等では、空き家対策の相談窓口の設置は難しいとの見解ではあるが、専門的に解決に向けた職員配置は今後求められると考えられるため、ぜひ検討をお願いしたい。

【少子高齢化】

① 環境整備(草刈り、溝掃除、山の管理など)など維持管理が困難(高齢化と若者不足による)になっている現状の認識と今後の対応について。

○少子高齢化の中で、地域の環境整備し維持管理することも大変になっている。こうした中現状の解消に向けて資金面や人材確保などの対策を検討していただきたい。

② 子育て支援の充実について。

○出産から子育て(おむつの支給)・教育(給食費や医療費など)における無償化の推進を検討していただきたい。

③ 幼児期・小中学校時からの、郷土愛の持てる市独自の教育について。

○ふるさとキャリア教育などによる、地元を学ぶ取り組みはされているが、幼児期の地元や親を大切に思う気持ちのなどの経験や記憶が、地元を思う気持ちにつながると言える。郷土を愛する市独自の教育の進め方についてお示しいただきたい。

【地域コミュニティ】

① 担い手(後継者がいない)不足で、変わりたくても変わらない現状の認識と今後の対応について。

○生産年齢人口の減少や少子化の中で、人材不足によって60代70代も仕事の現役と言う状況になっている。そうした中で、地域コミュニティの役員も高齢の方が多く、なり手がいないという事態になっている。

後継者(若手)の育成、市退職者の地域ボランティアの仕組みや市現役職員のかかわる環境の整備の考え方についてお示しいただきたい。

- ② 地域コミュニティ事業のさらなる推進に向けた考え方についてお示しいただきたい。
○コミュニティ事業 10 年経過し、今後も継続するにあたり、後継者不足と運営資金が大きな課題になると言える。今後の継続の見通し（繰越金あるうちは継続できるが、資金がなくなった時の扱いは）について行政としてのコミュニティ事業のさらなる推進に向けた担い手育成と指導や助言の方針についてお示しいただきたい。
- ③ 地域コミュニティ事業が、親子で地元愛(地域文化や伝統の良さを知る)を共有できる取り組みの強化(子供を引き付ければ親がついてくる)について。
○郷土愛を育むには、子供のころからの環境づくりが大きく関係すると言える。親子がともに地域の文化や伝統に関わることで育まれてくるともいえるだけに、子育て・教育環境の充実に向けた行政としての取り組みへの認識と対応についてお示しいただきたい。
- ④ 婦人会の活動が衰退気味。女性が残れる地域となる政策を。女性のリーダーがいなくなった。文化芸能など活発化させ、女性が活躍できる政策の検討について。
○近年婦人会の活動も高齢化の中で衰退していると言えます。若者が積極的に関われる環境づくりが求められており、女性が生き生きと活躍することで、地域に活力が生まれます。女性がもっと気楽に活躍できる文化芸能などの取り組みや政策についてお示しいただきたい。(例えば、浜田市で取り組まれている、女性だけの神楽である、舞姫社中とか)

【地域公共・生活交通】

- ① 交通弱者に配慮したバス運行やバス代の限定的な補助金制度の創設(免許返納で、通院・買い物、日常生活が困らないバス・タクシー代補助)について。
○免許返納は移動に不便が生じる中で、交通機関の廃止などで益々外出の機会が奪われる。公共交通を利用し交通事業者を守り、高齢者の生活を支えるために、バスやタクシーの利用補助券の拡充について検討をしていただきたい。
現行の福祉タクシーは、障がい者や要介護者のみが対象であり、一般の高齢者や要支援者にも拡充していただきたい。
- ② 移動販売の地域のニーズの把握と地域と連携した取り組みと、支援金制度の創設について。
○買い物難民の現状把握をするとともに、地域と連携した買い物難民対策と移動販売の事業者への補助金などの支援で収入補填をすることで、安定的な運営を保障し買い物難民解消に対策を講じていただきたい。

【学校統合】

- ① 学校がなくなると地域が荒廃する事の認識について。
○小学校の統廃合は、財政的な運営でなく地域のまちづくりと連動して検討することが重要であり、学校がなくなって町が栄えた事例はない。更に高校の統廃合も言われる中で、ますます地域から子供の声が薄れていくと言える。本市の教育行政の在り方とまちづくりの在り方が問われている。
学校の在り方とまちづくりや教育の在り方の認識や方針についてお示しいただきたい。

- ② 統合するメリット、デメリット含め、改めて保護者の意見を言える場の取り組みについて。
○西部統合小学校（仮称）の延期により当事者が変わっている中で、新たな意見聴取はしないとの考えだが、市民からもしっかりと意見を聞いた中で進めるべきとの意見が出された。また、建設候補地も再度検討・調査と言う中で、理解を得た計画時と異なる場合は説明を尽くすべきと考える。再度意見を聞く場の設定の考えについてお示しいただきたい。

【図書館】

- ① 図書館建設の見通しについて。
○市民の悲願である、図書館建設が全く明らかにされていない現状の中で、現状の検討状況や今後の見通しについてお示しいただきたい。

【治水対策】

- ① 集団での移転先の住民との、コミュニケーションの不安解消に十分な配慮について。
○集団移転に伴い、移転先住民とのコミュニケーションは安心した生活を営むためにも大切なことと言える。当然地域の中でコミュニケーションを図りお互いの信頼関係を築き上げていかなければならないが、行政として不安解消に向けた具体的な考えや対策など検討されておられるならお示しいただきたい。
- ② 樋門の操作における連絡・連携について、迅速にできる対応について。
○災害時は、誰がどのようにどう対応するかなどしっかりとしたマニュアルが重要になっている。日常での訓練含め連絡・連携の体制についてお示しいただきたい。

【有害鳥獣対策】

- ① イノシシ、サル、鹿と多いが、サルが人口よりも多く苦勞している。被害対策について。
○鳥獣害被害は、捕獲や柵の設置などの対策が取られているが、住民による取り残し作物や果実の撤去など自助的対策、そして耕作放棄地の管理、木縁や藪の伐採管理による、動物と住民とのすみわけ、などの共助も必要になります。更に個体数の把握や生息地把握による捕獲など計画的な対応も求められていますが、こうした取り組みにおける行政が取り組む今後の被害対策の課題についてお示しいただきたい。
- ② 猟師も高齢化で、今後の対策について。
○狩猟免許の取得に当たっての補助や更新時の補助、捕獲に対する支援制度の拡充の考え方を示しいただきたい。

以 上